

## 第32回(通算2648回) 例会記録 2015年2月25日(水)

□司会進行/ 羽地 宏幸

□ロータリーソング/ 奉仕の理想・四つのテスト

□ゲスト/ 則竹 秀南老大師(京都霊雲院住職)  
岡島 南圭氏(本光寺住職)

□メイクアップ/ 大山佐千夫・池城貞光・宮良榮子  
南波 正幸・宮良 幸男・玉城 守雄(計6名)

### 出席報告

会員総数	36名
出席義務会員	35名
出席数	24名
欠席数	11名
出席率	68.57%
通算出席率(2月)	65.71%

### 本日のニコニコ

	収入	累計
ニコニコBox	¥8,000	¥128,000
コインBox	¥3,196	¥69,069
合計	¥11,196	¥197,069

志 (本光寺 岡島 南圭氏)  
秀南老大師、本光寺さんをお迎えして(小林昌道)  
2月23日のロータリー設立記念を祝して  
(上原 秀政)

### 幹事報告:白道 直行

2月16日・17日の地区大会はお疲れ様でした。鈴木ガバナーからもお礼の挨拶、また台湾の第3480地区の地区大会4月18日・19日のご案内が届いております。

2月13日国際奉仕委員会を開催されました。議題は2点で5月か6月にボランティアツアーを計画している香港大学生黄さんを始めとする10名から12名の皆さん、諸般の都合により今年の12月か来年の1月に延期しました、という連絡がありました。2点目は台東R.C訪問の件について、大瀧 達也さんに3案作ってもらって、それをツーリストに確認して決めましょう、という事でしたが、肝心の石垣-台湾の航空機、いろんな諸般の事情、事故等がありましたので、飛行機そのものが無くなりましたので、また白紙の状態です。改めて国際奉仕委員会の皆様と相談しながら案を作って、皆様にご報告したいと思います。

### 会員卓話:上原 秀政氏

改めましてこんにちは。先週の地区大会本当にご苦労様でした。石垣から21名参加いたしました。大勢参加できて良かったと思います。16日に会長・幹事会がありまして、その後R.I会長代理を囲んでの晩さん会があったんですけど、私の妻も一緒に行って、初めての参加でしたので要領が分からなくて、私の妻の登録をしていなかったの、その会場に妻もわざわざ着物を着て行ったんですけど、席がないと、川畑さんと森山さんがいらして、必ずキャンセルが出て空きますので、と言うので、しばらく待っていたらようやく席が空いて、晩さん会に参加できました。

翌日は地区大会本番を迎えまして、参加クラブ紹介の時に石垣R.C21名のメンバーで歓声を上げて挨拶しまして、本当に誇りに思いました。その後、親睦会は上野R.Cが設定してくれた隅田川の屋形船に乗って、船は揺れるは日本酒を飲んで頭は揺れるは、どんちゃん騒ぎしていつの間に終わっていたような印象です。本当に楽しい地区大会でありました。良い経験をさせてもらったのも、石垣R.Cの皆さんの結束のお蔭だと思っております。本当に有難うございました。

### ゲスト卓話:則竹 秀南老大師

#### テーマ「今年の干支(未)の話」

皆さんこんにちは。只今ご紹介いただきました則竹でございます。生まれは石垣島から一番近い台湾です。台湾の台南市で昭和12年に生まれました。小さい間、達磨寺というお寺で育ちましたが、戦争で台湾の生まれ故郷を去って内地へ帰ってきました。早く言えば、人生全て流浪の旅でありました。流れ者です。今は京都の妙心寺の中の霊雲院というお寺に、仮の宿を取っているわけです。いつ放り出されるか分からない。お寺というのは自分の物ではありません。仮に住んでいると、出て行きなさいと言われてたら出て行くと、そういうつもりでおります。どこで死んでいくかも分かりません。でも有難いことに、今日はこうして皆

さんのお招きを戴きまして、懐かしい石垣島でお話をさせて頂くという事、感激しながら参りました。

今年は未なので、ヒツジについてしばらくお時間を頂きたいと思っております。羊というのは温厚な動物であります。「羊」という字は吉祥の祥の古字と字引には書いてあります。従って「羊」という一字で吉祥の祥を表すわけです。だから大吉羊という場合に「羊」を書いて、ちゃんと意味が通じるという事です。もちろん示す辺に羊を書いた、我々が普段使っている字で十分なんですけど、ただし古字としましてはこの字が使われるという事です。

この羊の下に心が付くと恙(よう)と発音しますが、恙(つつが)と読みます。恙というのは昔からいる虫で、毒虫であります。私たちの先祖が草で屋根を葺いたような住処であった頃、朝起きると「おい、おい恙いたか、恙いなかったか」「いや恙なかったよ」と言って、会話をしたようです。つまりこの恙出てくると、我々人間を刺すわけです。毒虫ですからやはり痛かったのか、痒かったのか分かりませんが、昔の先祖は困ったわけです。恙にやられたか、やられてないか、これが挨拶だったと言います。そういう所から朝起きて恙ない、恙なしやという言葉が現代も使われています。恙なく新年をお迎えになられた事と思っております。こういう使い方をしますね。

「美」という文字も羊に関わってきます。それから義理の「義」、これも羊に我という字を書くと「義」ですね。正しいとか筋道とか、あるいは善い行いに、人に優れているとかそんな意味があります。

また四字熟語で羊子跪乳(ようこきにゅう)という言葉があります。初めてだと思いますが、これは子羊が跪(き)というのは、ひざまずくという事、子羊は習性でお母さんの乳を飲むときに、ちゃんとひざまずいて飲むんです。我々のご先祖が見て、なんと子羊は礼儀正しいと、人間も確あるべきだと、子羊さえ跪いてお母さんの乳を飲むんだと、だから我々もお母さんのお乳というのを大切に、お母さんのお恩を良く知って、そして飲まなければならない。ところが、お母さんのお乳を飲んだ時に、ありがとうございます、お母さん戴きますと言いましたか?言ってもせんけど、大きくなってから礼儀作法を教える行くうで、こ

ういう事を我々の先祖は説いていったと思いません。すばらしい言葉だと思います。あまり知られていません。

それに対して帝恙触垣(ていようしょくばん)という言葉があります。ていというのは雄羊の方です。雄羊が垣根に触れるという事です。これは禅語です。どういう事かという、羊というのは、視力が大変弱いようです。羊が例えば何かに当たると、食べ物と思って、食べてしまう。どうしてか言うと目が不自由だから。そういう事から羊が歩いていて、目が悪いから垣根と分からないので、頭を突っ込むわけです。そしたら垣根から頭を抜こうとしても角があるので、出て来れない。首を突っ込んだんだけど、首を抜くことができない。そこでもがくわけです。そういうところから動きの取れないという意味に解されてきています。

我々は知識とかあるいは経験、体験、習慣、常識そういったものを身に付けるわけです。素晴らしい事だけれど、よくよく考えてみると、その素晴らしい知識、習慣、経験、体験、そういったものに反対に縛られて、にっちもさっちもいかない状態に落ち入る。これがまた人間の姿であります。考える事はいいんです。でも考えすぎると寝れないという事があります。寝ても覚めてもそればかりに捕らわれてしまう。一種のノイローゼになってしまう。現代人がそういう傾向にありつつある。知るという事は良い事ですが、物事はリスクが大きいと言うことです。我々の生活が良くなれば良くなるほど、また一面リスクも大きくなるという事、そこで正しい判断を下していかなければならないという事です。高度な文明社会に入っています。ボタン1つで何でもできるという時代、でもそれに伴った環境汚染、それ以外にいろいろあります。リスクも大きいんです。

我々本来、自分の本心というものは生まれた時に、きれいな心であったはず。ところが悪く言えば汚染されたんです。知識、文化という、科学文明というものに汚染されて、そしてそのきれいな心がだんだん醜くなってきているという事も、事実であります。

お互い石垣島、八重山諸島の純粋な心持を、私たちは大切に保ち続けていかなければいけないと思っております。それがまた皆さん方の使命でもあると思っております。真実を追求する、真実は何かという事です。それは本来お互いの心の中に満ち溢れて

いるんです。でもそれが文化というか常識というか、習慣というか、そういったもので次第に汚染されていく。昔の禅のお坊さんの言葉に「幼子が次第次第に知恵付きて仏に遠くなるぞ悲しき」という言葉があります。味わい深い言葉です。小さい子供がきれいな仏様のような心だったんです。その幼子がいろんな事を覚えるわけです。知識を教え込まれる。常識を教え込まれる。でもこれがなかったら生活できません。風習がある、そんなことの中に、「次第次第に知恵付きて」実は大きなリスクをまた持っているわけです。「仏に遠くなるぞ悲しき」仏様の純粋な心からだんだん遠のいていっていると、いうそういうリスクを抱えているという事です。そういう事も私たちは考えて生きて行かなければならないと思います。心理を求めて、文化を求めて、生活を向上していく豊かさを求めて、幸せを求めていくのはいいんです。でもそれに伴うリスクもあるという事、この両面をよく考えながら私たちはそこに的確な判断をしていかなければならないです。

羞(しゅう)という字があります。すすむとか食物をすすめる、と同時に供える、仏様神様にお供えする。そういう素晴らしい言葉であります、と同時に恥じという、はずという意味があります。私たちは考えてみればきれいな心を持ったお互いですが、いろんな悪行を重ねているということ。親鸞聖人は「罪業深重の凡夫」と自分自身を定義づけておられます。人様の事を言ったらいけません。人の上げ足ばかり取っている。これは現代の風潮です。これはいけなしいと思います。人様の事は良い事を言うんです。お互い人間ですから、悪い所は持っています。でも人様に関してはその人の素晴らしい事をお互いに話し合うという事。自分自身については自分の悪い事を反省してく、これを恥じるというんです。自分に対して如何なものかと、反省して自分自身を恥じてる、この気持ちが大切です。こんな自分であった、今日1日こういう事をしたけれど、あれは良かったか、悪かったか、と自分を反省して恥じていく。この気持ちは我々は大切だと思います。その中で私たちはどのような行動をしていくかという事です。

それから羶行(せんこう)という言葉があります。羶という字は生臭い、羊の油を羶と言います。人に慕われる良い行いという事です。皆様もロー

タリアンとして良い行いをなさる。これが基本精神ですね。でも大切な事は人に慕われる良い行いをするという事。人に慕われるです。これが羶行という言葉です。

それで私たちは、この日本というものを如何にこれから建て直していくかという事です。「恙なく」我々は日常生活をしていく上において、この恙なきという事は聖徳太子様の時代から使われている事が、あの時代からみんな無事でおれるかな、平和でおれるかなという事です。これが我々人類にとっての一番の願いであるわけです。どうか皆様の力強い世に対する働きというもの、色々と聞かせて頂いております。どうかその活動を期待してやまないものであります。今日はありがとうございました。

### ～例会風景～

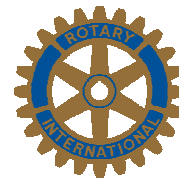


羊の字に関連するお話、色々あるんですね。

ありがとうございました。

2015年(平成27年)3月4日(水) 第33回 例会(通算2649)

国際ロータリー第2580地区



# THE ISHIGAKI ROTARY

(今月のロータリーレート 1ドル118円) WEEKLY REPORT No. 2546



国際ロータリー会長テーマ

ロータリーに輝きを  
Light Up Rotary

ゲイリーC. K. ホアン

石垣ロータリークラブ会長テーマ

真・善・美

2014-15 年度会長 上原 秀政

創立記念日 1962年3月12日 (54周年)



#### ●キミスジ(タテハチョウ科)

名前の通り、鮮やかな黄色の筋が三本。台湾から東南アジアにかけて広く見られる蝶だが、以前は与那国島や西表島で僅かに記録があるだけだった。裏面は枯葉模様で、一種の保護色になっている。

例会日 水曜日 12:30~13:30  
 例会場 ホテル日航八重山(0980)83-3311  
 事務局 〒907-0013 石垣市浜崎町1-1-4  
 TEL/FAX 0980-83-2917  
 URL <http://ishigaki-rotary.jimdo.com>  
 E-mail [ishiroatary@ninus.ocn.ne.jp](mailto:ishiroatary@ninus.ocn.ne.jp)

会 長 : 上 原 秀 政  
 副 会 長 : 新 賢 次  
 幹 事 : 白 道 直 行  
 副 幹 事 : 宮 良 薫  
 S A A ・ 出 席 : 渡 久 地 明  
 情 報 ・ 会 報 : 玉 城 守 雄

## 第32回(通算2648回) 例会記録 2015年2月25日(水)

□司会進行/ 羽地 宏幸

□ロータリーソング/ 奉仕の理想・四つのテスト

□ゲスト/ 則竹 秀南老大師(京都霊雲院住職)  
岡島 南圭氏(本光寺住職)

□メイクアップ/ 大山佐千夫・池城貞光・宮良榮子  
南波 正幸・宮良 幸男・玉城 守雄(計6名)

### 出席報告

会 員 総 数	36名
出 席 義 務 会 員	35名
出 席 数	24名
欠 席 数	11名
出 席 率	68.57%
通 算 出 席 率 ( 2 月 )	65.71%

### 本日のニコニコ

	収 入	累 計
ニコニコBox	¥8,000	¥128,000
コイン Box	¥3,196	¥69,069
合 計	¥11,196	¥197,069

志 (本光寺 岡島 南圭氏)  
秀南老大師、本光寺さんをお迎えして(小林昌道)  
2月23日のロータリー設立記念を祝して  
(上原 秀政)

### 幹事報告:白道 直行

2月16日・17日の地区大会はお疲れ様でした。鈴木ガバナーからもお礼の挨拶、また台湾の第3480地区の地区大会4月18日・19日のご案内が届いております。

2月13日国際奉仕委員会を開催されました。議題は2点で5月か6月にボランティアツアーを計画している香港大学生黄さんを始めとする10名から12名の皆さん、諸般の都合により今年の12月か来年の1月に延期しました、という連絡がありました。2点目は台東東RC訪問の件について、大瀧 達也さんに3案作ってもらって、それをツーリストに確認して決めましょう、という事でしたが、肝心の石垣-台湾の航空機、いろんな諸般の事情、事故等がありましたので、飛行機そのものが無くなりましたので、また白紙の状態です。改めて国際奉仕委員会の皆様と相談しながら案を作って、皆様にご報告したいと思います。

### 会員卓話:上原 秀政氏

改めましてこんにちは。先週の地区大会本当にご苦労様でした。石垣から21名参加いたしました。大勢参加できて良かったと思います。16日に会長・幹事会がありまして、その後RI会長代理を囲んでの晩さん会があったんですけど、私の妻も一緒に行って、初めての参加でしたので要領が分からなくて、私の妻の登録をしていなかったの、その会場に妻もわざわざ着物を着て行ったんですけど、席がないと、川畑さんと森山さんがいらして、必ずキャンセルが出て空きますので、と言うので、しばらく待っていたらようやく席が空いて、晩さん会に参加できました。

翌日は地区大会本番を迎えまして、参加クラブ紹介の時に石垣RC21名のメンバーで歓声を上げて挨拶しまして、本当に誇りに思いました。その後、親睦会は上野RCが設定してくれた隅田川の屋形船に乗って、船は揺れるは日本酒を飲んで頭は揺れるは、どんちゃん騒ぎしていつの間に終わっていたような印象です。本当に楽しい地区大会でありました。良い経験をさせてもらったのも、石垣RCの皆さんの結束のお蔭だと思っております。本当に有難うございました。

### ゲスト卓話:則竹 秀南老大師

#### テーマ「今年の干支(未)の話」

皆さんこんにちは。只今ご紹介いただきました則竹でございます。生まれは石垣島から一番近い台湾です。台湾の台南市で昭和12年に生まれました。小さい間、達磨寺というお寺で育ちましたが、戦争で台湾の生まれ故郷を去って内地へ帰ってきました。早く言えば、人生全て流浪の旅でありました。流れ者です。今は京都の妙心寺の中の霊雲院というお寺に、仮の宿を取っているわけです。いつ放り出されるか分からない。お寺というのは自分の物ではありません。仮に住んでいると、出て行きなさいと言われてたら出て行くと、そういうつもりでおります。どこで死んでいくかも分かりません。でも有難いことに、今日はこうして皆

さんのお招きを戴きまして、懐かしい石垣島でお話をさせて頂くという事、感激しながら参りました。

今年は未なので、ヒツジについてしばらくお時間を頂きたいと思っております。羊というのは温厚な動物であります。「羊」という字は吉祥の祥の古字と字引には書いてあります。従って「羊」という一字で吉祥の祥を表すわけです。だから大吉羊という場合に「羊」を書いて、ちゃんと意味が通じるという事です。もちろん示す辺に羊を書いた、我々が普段使っている字で十分なんですけど、ただし古字としましてはこの字が使われるという事です。

この羊の下に心が付くと恙(よう)と発音しますが、恙(つつが)と読みます。恙というのは昔からいる虫で、毒虫であります。私たちの先祖が草で屋根を葺いたような住処であった頃、朝起きると「おい、おい恙いたか、恙いなかったか」「いや恙なかったよ」と言って、会話をしたようです。つまりこの恙出てくると、我々人間を刺すわけです。毒虫ですからやはり痛かったのか、痒かったのか分かりませんが、昔の先祖は困ったわけです。恙にやられたか、やられてないか、これが挨拶だったと言います。そういう所から朝起きて恙ない、恙なしやという言葉が現代も使われています。恙なく新年をお迎えになられた事と思っております。こういう使い方をしますね。

「美」という文字も羊に関わってきます。それから義理の「義」、これも羊に我という字を書くと「義」ですね。正しいとか筋道とか、あるいは善い行いに、人に優れているとかそんな意味があります。

また四字熟語で羊子跪乳(ようこきにゅう)という言葉があります。初めてだと思いますが、これは子羊が跪(き)というのは、ひざまずくという事、子羊は習性でお母さんの乳を飲むときに、ちゃんとひざまずいて飲むんです。我々のご先祖が見て、なんと子羊は礼儀正しいと、人間も確あるべきだと、子羊さえ跪いてお母さんの乳を飲むんだと、だから我々もお母さんのお乳というのを大切に、お母さんのご恩を良く知って、そして飲まなければならない。ところが、お母さんのお乳を飲んだ時に、ありがとうございます、お母さん戴きますと言いましたか?言ってますけど、大きくなってから礼儀作法を教える行くうで、こ

ういう事を我々の先祖は説いていったと思いません。すばらしい言葉だと思います。あまり知られていません。

それに対して帝恙触垣(ていようしょくばん)という言葉があります。ていというのは雄羊の方です。雄羊が垣根に触れるという事です。これは禅語です。どういう事かという、羊というのは、視力が大変弱いようです。羊が例えば何かに当たると、食べ物と思って、食べてしまう。どうしてか言うと目が不自由だから。そういう事から羊が歩いていて、目が悪いから垣根と分からないので、頭を突っ込むわけです。そしたら垣根から頭を抜こうとしても角があるので、出て来れない。首を突っ込んだんだけど、首を抜くことができない。そこでもがくわけです。そういうところから動きの取れないという意味に解されてきています。

我々は知識とかあるいは経験、体験、習慣、常識そういったものを身に付けるわけです。素晴らしい事だけれど、よくよく考えてみると、その素晴らしい知識、習慣、経験、体験、そういったものに反対に縛られて、にっちもさっちもいかない状態に落ち入る。これがまた人間の姿であります。考える事はいいんです。でも考えすぎると寝れないという事があります。寝ても覚めてもそればかりに捕らわれてしまう。一種のノイローゼになってしまう。現代人がそういう傾向にありつつある。知るという事は良い事ですが、物事はリスクが大きいと言うことです。我々の生活が良くなれば良くなるほど、また一面リスクも大きくなるという事、そこで正しい判断を下していかなければならないという事です。高度な文明社会に入っています。ボタン1つで何でもできるという時代、でもそれに伴った環境汚染、それ以外にいろいろあります。リスクも大きいんです。

我々本来、自分の本心というものは生まれた時に、きれいな心であったはず。ところが悪く言えば汚染されたんです。知識、文化という、科学文明というものに汚染されて、そしてそのきれいな心がだんだん醜くなってきているという事も、事実であります。

お互い石垣島、八重山諸島の純粋な心持を、私たちは大切に保ち続けていかなければいけないと思っております。それがまた皆さん方の使命でもあると思っております。真実を追求する、真実は何かという事です。それは本来お互いの心の中に満ち溢れて

いるんです。でもそれが文化というか常識というか、習慣というか、そういったもので次第に汚染されていく。昔の禅のお坊さんの言葉に「幼子が次第次第に知恵付きて仏に遠くなるぞ悲しき」という言葉があります。味わい深い言葉です。小さい子供がきれいな仏様のような心だったんです。その幼子がいろんな事を覚えるわけです。知識を教え込まれる。常識を教え込まれる。でもこれがなかったら生活できません。風習がある、そんなことの中に、「次第次第に知恵付きて」実は大きなリスクをまた持っているわけです。「仏に遠くなるぞ悲しき」仏様の純粋な心からだんだん遠のいていっていると、いうそういうリスクを抱えているという事です。そういう事も私たちは考えて生きて行かなければならないと思います。心理を求めて、文化を求めて、生活を向上していく豊かさを求めて、幸せを求めていくのはいいんです。でもそれに伴うリスクもあるという事、この両面をよく考えながら私たちはそこに的確な判断をしていかなければならないです。

羞(しゅう)という字があります。すすむとか食物をすすめる、と同時に供える、仏様神様にお供えする。そういう素晴らしい言葉であります、と同時に恥じという、はずという意味があります。私たちは考えてみればきれいな心を持ったお互いですが、いろんな悪行を重ねているということ。親鸞聖人は「罪業深重の凡夫」と自分自身を定義づけておられます。人様の事を言ったらいけません。人の上げ足ばかり取っている。これは現代の風潮です。これはいけないと思います。人様の事は良い事を言うんです。お互い人間ですから、悪い所は持っています。でも人様に関してはその人の素晴らしい事をお互いに話し合うという事。自分自身については自分の悪い事を反省してく、これを恥じるというんです。自分に対して如何なものかと、反省して自分自身を恥じてる、この気持ちが大切です。こんな自分であった、今日1日こういう事をしたけれど、あれは良かったか、悪かったか、と自分を反省して恥じていく。この気持ちは我々は大切だと思います。その中で私たちはどのような行動をしていくかという事です。

それから羶行(せんこう)という言葉があります。羶という字は生臭い、羊の油を羶と言います。人に慕われる良い行いという事です。皆様もロー

タリアンとして良い行いをなさる。これが基本精神ですね。でも大切な事は人に慕われる良い行いをするという事。人に慕われるです。これが羶行という言葉です。

それで私たちは、この日本というものを如何にこれから建て直していくかという事です。「恙なく」我々は日常生活をしていく上において、この恙なきという事は聖徳太子様の時代から使われている事が、あの時代からみんな無事でおれるかな、平和でおれるかなという事です。これが我々人類にとっての一番の願いであるわけです。どうか皆様の力強い世に対する働きというもの、色々と聞かせて頂いております。どうかその活動を期待してやまないものであります。今日はありがとうございました。

### ～例会風景～

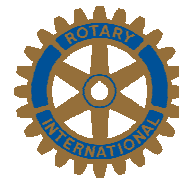


羊の字に関連するお話、色々あるんですね。

ありがとうございました。

2015年(平成27年)3月4日(水) 第33回 例会(通算2649)

国際ロータリー第2580地区



# THE ISHIGAKI ROTARY

(今月のロータリーレート 1ドル118円) WEEKLY REPORT No. 2546



国際ロータリー会長テーマ

ロータリーに輝きを  
Light Up Rotary

ゲイリーC. K. ホアン

石垣ロータリークラブ会長テーマ

真・善・美

2014-15 年度会長 上原 秀政

創立記念日 1962年3月12日 (54周年)



#### ●キミスジ(タテハチョウ科)

名前の通り、鮮やかな黄色の筋が三本。台湾から東南アジアにかけて広く見られる蝶だが、以前は与那国島や西表島で僅かに記録があるだけだった。裏面は枯葉模様で、一種の保護色になっている。

例会日 水曜日 12:30~13:30  
 例会場 ホテル日航八重山(0980)83-3311  
 事務局 〒907-0013 石垣市浜崎町1-1-4  
 TEL/FAX 0980-83-2917  
 URL <http://ishigaki-rotary.jimdo.com>  
 E-mail [ishiroatary@ninus.ocn.ne.jp](mailto:ishiroatary@ninus.ocn.ne.jp)

会 長 : 上 原 秀 政  
 副 会 長 : 新 賢 次  
 幹 事 : 白 道 直 行  
 副 幹 事 : 宮 良 薫  
 S A A ・ 出 席 : 渡 久 地 明  
 情 報 ・ 会 報 : 玉 城 守 雄

## 第32回(通算2648回) 例会記録 2015年2月25日(水)

□司会進行/ 羽地 宏幸

□ロータリーソング/ 奉仕の理想・四つのテスト

□ゲスト/ 則竹 秀南老大師(京都霊雲院住職)  
岡島 南圭氏(本光寺住職)

□メイクアップ/ 大山佐千夫・池城貞光・宮良榮子  
南波 正幸・宮良 幸男・玉城 守雄(計6名)

### 出席報告

会 員 総 数	36名
出 席 義 務 会 員	35名
出 席 数	24名
欠 席 数	11名
出 席 率	68.57%
通 算 出 席 率 ( 2 月 )	65.71%

### 本日のニコニコ

	収 入	累 計
ニコニコBox	¥8,000	¥128,000
コイン Box	¥3,196	¥69,069
合 計	¥11,196	¥197,069

志 (本光寺 岡島 南圭氏)  
秀南老大師、本光寺さんをお迎えして(小林昌道)  
2月23日のロータリー設立記念を祝して  
(上原 秀政)

### 幹事報告:白道 直行

2月16日・17日の地区大会はお疲れ様でした。鈴木ガバナーからもお礼の挨拶、また台湾の第3480地区の地区大会4月18日・19日のご案内が届いております。

2月13日国際奉仕委員会を開催されました。議題は2点で5月か6月にボランティアツアーを計画している香港大学生黄さんを始めとする10名から12名の皆さん、諸般の都合により今年の12月か来年の1月に延期しました、という連絡がありました。2点目は台東東RC訪問の件について、大瀧 達也さんに3案作ってもらって、それをツーリストに確認して決めましょう、という事でしたが、肝心の石垣-台湾の航空機、いろんな諸般の事情、事故等がありましたので、飛行機そのものが無くなりましたので、また白紙の状態です。改めて国際奉仕委員会の皆様と相談しながら案を作って、皆様にご報告したいと思います。

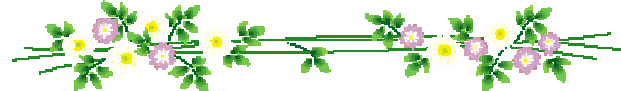
### 会員卓話:上原 秀政氏

改めましてこんにちは。先週の地区大会本当にご苦労様でした。石垣から21名参加いたしました。大勢参加できて良かったと思います。16日に会長・幹事会がありまして、その後RI会長代理を囲んでの晩さん会があったんですけど、私の妻も一緒に行って、初めての参加でしたので要領が分からなくて、私の妻の登録をしていなかったの、その会場に妻もわざわざ着物を着て行ったんですけど、席がないと、川畑さんと森山さんがいらして、必ずキャンセルが出て空きますので、と言うので、しばらく待っていたらようやく席が空いて、晩さん会に参加できました。

翌日は地区大会本番を迎えまして、参加クラブ紹介の時に石垣RC21名のメンバーで歓声を上げて挨拶しまして、本当に誇りに思いました。その後、親睦会は上野RCが設定してくれた隅田川の屋形船に乗って、船は揺れるは日本酒を飲んで頭は揺れるは、どんちゃん騒ぎしていつの間に終わっていたような印象です。本当に楽しい地区大会でありました。良い経験をさせてもらったのも、石垣RCの皆さんの結束のお蔭だと思っております。本当に有難うございました。

### ゲスト卓話:則竹 秀南老大師

#### テーマ「今年の干支(未)の話」



皆さんこんにちは。只今ご紹介いただきました則竹でございます。生まれは石垣島から一番近い台湾です。台湾の台南市で昭和12年に生まれました。小さい間、達磨寺というお寺で育ちましたが、戦争で台湾の生まれ故郷を去って内地へ帰ってきました。早く言えば、人生全て流浪の旅でありました。流れ者です。今は京都の妙心寺の中の霊雲院というお寺に、仮の宿を取っているわけです。いつ放り出されるか分からない。お寺というのは自分の物ではありません。仮に住んでいると、出て行きなさいと言われてたら出て行くと、そういうつもりでおります。どこで死んでいくかも分かりません。でも有難いことに、今日はこうして皆

さんのお招きを戴きまして、懐かしい石垣島でお話をさせて頂くという事、感激しながら参りました。

今年は未なので、ヒツジについてしばらくお時間を頂きたいと思っております。羊というのは温厚な動物であります。「羊」という字は吉祥の祥の古字と字引には書いてあります。従って「羊」という一字で吉祥の祥を表すわけです。だから大吉祥という場合に「羊」を書いて、ちゃんと意味が通じるという事です。もちろん示す辺に羊を書いた、我々が普段使っている字で十分なんですけど、ただし古字としましてはこの字が使われるという事です。

この羊の下に心が付くと恙(よう)と発音しますが、恙(つつが)と読みます。恙というのは昔からいる虫で、毒虫であります。私たちの先祖が草で屋根を葺いたような住処であった頃、朝起きると「おい、おい恙いたか、恙いなかったか」「いや恙なかったよ」と言って、会話をしたようです。つまりこの恙出てくると、我々人間を刺すわけです。毒虫ですからやはり痛かったのか、痒かったのか分かりませんが、昔の先祖は困ったわけです。恙にやられたか、やられてないか、これが挨拶だったと言います。そういう所から朝起きて恙ない、恙なしやという言葉が現代も使われています。恙なく新年をお迎えになられた事と思っております。こういう使い方をしますね。

「美」という文字も羊に関わってきます。それから義理の「義」、これも羊に我という字を書くと「義」ですね。正しいとか筋道とか、あるいは善い行いに、人に優れているとかそんな意味があります。

また四字熟語で羊子跪乳(ようこきにゅう)という言葉があります。初めてだと思いますが、これは子羊が跪(き)というのは、ひざまずくという事、子羊は習性でお母さんの乳を飲むときに、ちゃんとひざまずいて飲むんです。我々のご先祖が見て、なんと子羊は礼儀正しいと、人間も確あるべきだと、子羊さえ跪いてお母さんの乳を飲むんだと、だから我々もお母さんのお乳というのを大切に、お母さんのお恩を良く知って、そして飲まなければならない。ところが、お母さんのお乳を飲んだ時に、ありがとうございます、お母さん戴きますと言いましたか?言ってもせんけど、大きくなってから礼儀作法を教える行くうで、こ

ういう事を我々の先祖は説いていったと思いません。すばらしい言葉だと思います。あまり知られていません。

それに対して帝恙触垣(ていようしょくばん)という言葉があります。ていというのは雄羊の方です。雄羊が垣根に触れるという事です。これは禅語です。どういう事かという、羊というのは、視力が大変弱いようです。羊が例えば何かに当たると、食べ物と思って、食べてしまう。どうしてか言うと目が不自由だから。そういう事から羊が歩いていて、目が悪いから垣根と分からないので、頭を突っ込むわけです。そしたら垣根から頭を抜こうとしても角があるので、出て来れない。首を突っ込んだんだけど、首を抜くことができない。そこでもがくわけです。そういうところから動きの取れないという意味に解されてきています。

我々は知識とかあるいは経験、体験、習慣、常識そういったものを身に付けるわけです。素晴らしい事だけれど、よくよく考えてみると、その素晴らしい知識、習慣、経験、体験、そういったものに反対に縛られて、にっちもさっちもいかない状態に落ち入る。これがまた人間の姿であります。考える事はいいんです。でも考えすぎると寝れないという事があります。寝ても覚めてもそればかりに捕らわれてしまう。一種のノイローゼになってしまう。現代人がそういう傾向にありつつある。知るという事は良い事ですが、物事はリスクが大きいと言うことです。我々の生活が良くなれば良くなるほど、また一面リスクも大きくなるという事、そこで正しい判断を下していかなければならないという事です。高度な文明社会に入っています。ボタン1つで何でもできるという時代、でもそれに伴った環境汚染、それ以外にいろいろあります。リスクも大きいんです。

我々本来、自分の本心というものは生まれた時に、きれいな心であったはず。ところが悪く言えば汚染されたんです。知識、文化という、科学文明というものに汚染されて、そしてそのきれいな心がだんだん醜くなってきているという事も、事実であります。

お互い石垣島、八重山諸島の純粋な心持を、私たちは大切に保ち続けていかなければいけないと思っております。それがまた皆さん方の使命でもあると思っております。真実を追求する、真実は何かという事です。それは本来お互いの心の中に満ち溢れて

いるんです。でもそれが文化というか常識というか、習慣というか、そういったもので次第に汚染されていく。昔の禅のお坊さんの言葉に「幼子が次第次第に知恵付きて仏に遠くなるぞ悲しき」という言葉があります。味わい深い言葉です。小さい子供がきれいな仏様のような心だったんです。その幼子がいろんな事を覚えるわけです。知識を教え込まれる。常識を教え込まれる。でもこれがなかったら生活できません。風習がある、そんなことの中に、「次第次第に知恵付きて」実は大きなリスクをまた持っているわけです。「仏に遠くなるぞ悲しき」仏様の純粋な心からだんだん遠のいていっていると、いうそういうリスクを抱えているという事です。そういう事も私たちは考えて生きて行かなければならないと思います。心理を求めて、文化を求めて、生活を向上していく豊かさを求めて、幸せを求めていくのはいいんです。でもそれに伴うリスクもあるという事、この両面をよく考えながら私たちはそこに的確な判断をしていかなければならないです。

羞(しゅう)という字があります。すすむとか食物をすすめる、と同時に供える、仏様神様にお供えする。そういう素晴らしい言葉であります、と同時に恥じという、はずという意味があります。私たちは考えてみればきれいな心を持ったお互いですが、いろんな悪行を重ねているということ。親鸞聖人は「罪業深重の凡夫」と自分自身を定義づけておられます。人様の事を言ったらいけません。人の上げ足ばかり取っている。これは現代の風潮です。これはいけないと思います。人様の事は良い事を言うんです。お互い人間ですから、悪い所は持っています。でも人様に関してはその人の素晴らしい事をお互いに話し合うという事。自分自身については自分の悪い事を反省してく、これを恥じるというんです。自分に対して如何なものかと、反省して自分自身を恥じてる、この気持ちが大切です。こんな自分であった、今日1日こういう事をしたけれど、あれは良かったか、悪かったか、と自分を反省して恥じていく。この気持ちは我々は大切だと思います。その中で私たちはどのような行動をしていくかという事です。

それから羶行(せんこう)という言葉があります。羶という字は生臭い、羊の油を羶と言います。人に慕われる良い行いという事です。皆様もロー

タリアンとして良い行いをなさる。これが基本精神ですね。でも大切な事は人に慕われる良い行いをするという事。人に慕われるです。これが羶行という言葉です。

それで私たちは、この日本というものを如何にこれから建て直していくかという事です。「恙なく」我々は日常生活をしていく上において、この恙なきという事は聖徳太子様の時代から使われている事が、あの時代からみんな無事でおれるかな、平和でおれるかなという事です。これが我々人類にとっての一番の願いであるわけです。どうか皆様の力強い世に対する働きというもの、色々と聞かせて頂いております。どうかその活動を期待してやまないものであります。今日はありがとうございました。

### ～例会風景～

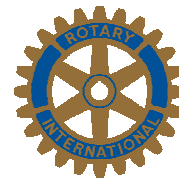


羊の字に関連するお話、色々あるんですね。

ありがとうございました。

2015年(平成27年)3月4日(水) 第33回 例会(通算2649)

国際ロータリー第2580地区



# THE ISHIGAKI ROTARY

(今月のロータリーレート 1ドル118円) WEEKLY REPORT No. 2546



国際ロータリー会長テーマ

ロータリーに輝きを  
Light Up Rotary

ゲイリーC. K. ホアン

石垣ロータリークラブ会長テーマ

真・善・美

2014-15 年度会長 上原 秀政

創立記念日 1962年3月12日 (54周年)



#### ●キミスジ(タテハチョウ科)

名前の通り、鮮やかな黄色の筋が三本。台湾から東南アジアにかけて広く見られる蝶だが、以前は与那国島や西表島で僅かに記録があるだけだった。裏面は枯葉模様で、一種の保護色になっている。

例会日 水曜日 12:30~13:30  
 例会場 ホテル日航八重山(0980)83-3311  
 事務局 〒907-0013 石垣市浜崎町1-1-4  
 TEL/FAX 0980-83-2917  
 URL <http://ishigaki-rotary.jimdo.com>  
 E-mail [ishiroatary@ninus.ocn.ne.jp](mailto:ishiroatary@ninus.ocn.ne.jp)

会 長 : 上 原 秀 政  
 副 会 長 : 新 賢 次  
 幹 事 : 白 道 直 行  
 副 幹 事 : 宮 良 薫  
 S A A ・ 出 席 : 渡 久 地 明  
 情 報 ・ 会 報 : 玉 城 守 雄

## 第32回(通算2648回) 例会記録 2015年2月25日(水)

□司会進行/ 羽地 宏幸

□ロータリーソング/ 奉仕の理想・四つのテスト

□ゲスト/ 則竹 秀南老大師(京都霊雲院住職)  
岡島 南圭氏(本光寺住職)

□メイクアップ/ 大山佐千夫・池城貞光・宮良榮子  
南波 正幸・宮良 幸男・玉城 守雄(計6名)

### 出席報告

会 員 総 数	36名
出 席 義 務 会 員	35名
出 席 数	24名
欠 席 数	11名
出 席 率	68.57%
通 算 出 席 率 ( 2 月 )	65.71%

### 本日のニコニコ

	収 入	累 計
ニコニコBox	¥8,000	¥128,000
コイン Box	¥3,196	¥69,069
合 計	¥11,196	¥197,069

志 (本光寺 岡島 南圭氏)  
秀南老大師、本光寺さんをお迎えして(小林昌道)  
2月23日のロータリー設立記念を祝して  
(上原 秀政)

### 幹事報告:白道 直行

2月16日・17日の地区大会はお疲れ様でした。鈴木ガバナーからもお礼の挨拶、また台湾の第3480地区の地区大会4月18日・19日のご案内が届いております。

2月13日国際奉仕委員会を開催されました。議題は2点で5月か6月にボランティアツアーを計画している香港大学生黄さんを始めとする10名から12名の皆さん、諸般の都合により今年の12月か来年の1月に延期しました、という連絡がありました。2点目は台東R.C訪問の件について、大瀧 達也さんに3案作ってもらって、それをツーリストに確認して決めましょう、という事でしたが、肝心の石垣-台湾の航空機、いろんな諸般の事情、事故等がありましたので、飛行機そのものが無くなりましたので、また白紙の状態です。改めて国際奉仕委員会の皆様と相談しながら案を作って、皆様にご報告したいと思います。

### 会員卓話:上原 秀政氏

改めましてこんにちは。先週の地区大会本当にご苦労様でした。石垣から21名参加いたしました。大勢参加できて良かったと思います。16日に会長・幹事会がありまして、その後R.I会長代理を囲んでの晩さん会があったんですけど、私の妻も一緒に行って、初めての参加でしたので要領が分からなくて、私の妻の登録をしていなかったの、その会場に妻もわざわざ着物を着て行ったんですけど、席がないと、川畑さんと森山さんがいらして、必ずキャンセルが出て空きますので、と言うので、しばらく待っていたらようやく席が空いて、晩さん会に参加できました。

翌日は地区大会本番を迎えまして、参加クラブ紹介の時に石垣R.C21名のメンバーで歓声を上げて挨拶しまして、本当に誇りに思いました。その後、親睦会は上野R.Cが設定してくれた隅田川の屋形船に乗って、船は揺れるは日本酒を飲んで頭は揺れるは、どんちゃん騒ぎしていつの間に終わっていたような印象です。本当に楽しい地区大会でありました。良い経験をさせてもらったのも、石垣R.Cの皆さんの結束のお蔭だと思っております。本当に有難うございました。

### ゲスト卓話:則竹 秀南老大師

#### テーマ「今年の干支(未)の話」



皆さんこんにちは。只今ご紹介いただきました則竹でございます。生まれは石垣島から一番近い台湾です。台湾の台南市で昭和12年に生まれました。小さい間、達磨寺というお寺で育ちましたが、戦争で台湾の生まれ故郷を去って内地へ帰ってきました。早く言えば、人生全て流浪の旅でありました。流れ者です。今は京都の妙心寺の中の霊雲院というお寺に、仮の宿を取っているわけです。いつ放り出されるか分からない。お寺というのは自分の物ではありません。仮に住んでいると、出て行きなさいと言われてたら出て行くと、そういうつもりでおります。どこで死んでいくかも分かりません。でも有難いことに、今日はこうして皆

さんのお招きを戴きまして、懐かしい石垣島でお話をさせて頂くという事、感激しながら参りました。

今年は未なので、ヒツジについてしばらくお時間を頂きたいと思っております。羊というのは温厚な動物であります。「羊」という字は吉祥の祥の古字と字引には書いてあります。従って「羊」という一字で吉祥の祥を表すわけです。だから大吉祥という場合に「羊」を書いて、ちゃんと意味が通じるという事です。もちろん示す辺に羊を書いた、我々が普段使っている字で十分なんですけど、ただし古字としましてはこの字が使われるという事です。

この羊の下に心が付くと恙(よう)と発音しますが、恙(つつが)と読みます。恙というのは昔からいる虫で、毒虫であります。私たちの先祖が草で屋根を葺いたような住処であった頃、朝起きると「おい、おい恙いたか、恙いなかったか」「いや恙なかったよ」と言って、会話をしたようです。つまりこの恙出てくると、我々人間を刺すわけです。毒虫ですからやはり痛かったのか、痒かったのか分かりませんが、昔の先祖は困ったわけです。恙にやられたか、やられてないか、これが挨拶だったと言います。そういう所から朝起きて恙ない、恙なしやという言葉が現代も使われています。恙なく新年をお迎えになられた事と思っております。こういう使い方をしますね。

「美」という文字も羊に関わってきます。それから義理の「義」、これも羊に我という字を書くと「義」ですね。正しいとか筋道とか、あるいは善い行いに、人に優れているとかそんな意味があります。

また四字熟語で羊子跪乳(ようこきにゅう)という言葉があります。初めてだと思いますが、これは子羊が跪(き)というのは、ひざまずくという事、子羊は習性でお母さんの乳を飲むときに、ちゃんとひざまずいて飲むんです。我々のご先祖が見て、なんと子羊は礼儀正しいと、人間も確あるべきだと、子羊さえ跪いてお母さんの乳を飲むんだと、だから我々もお母さんのお乳というのを大切に、お母さんのご恩を良く知って、そして飲まなければならない。ところが、お母さんのお乳を飲んだ時に、ありがとうございます、お母さん戴きますと言いましたか? 言ってませんけど、大きくなってから礼儀作法を教える行くうで、こ

ういう事を我々の先祖は説いていったと思いません。すばらしい言葉だと思います。あまり知られていません。

それに対して帝恙触垣(ていようしょくばん)という言葉があります。ていというのは雄羊の方です。雄羊が垣根に触れるという事です。これは禅語です。どういう事かという、羊というのは、視力が大変弱いようです。羊が例えば何かに当たると、食べ物と思って、食べてしまう。どうしてか言うと目が不自由だから。そういう事から羊が歩いていて、目が悪いから垣根と分からないので、頭を突っ込むわけです。そしたら垣根から頭を抜こうとしても角があるので、出て来れない。首を突っ込んだんだけど、首を抜くことができない。そこでもがくわけです。そういうところから動きの取れないという意味に解されてきています。

我々は知識とかあるいは経験、体験、習慣、常識そういったものを身に付けるわけです。素晴らしい事だけれど、よくよく考えてみると、その素晴らしい知識、習慣、経験、体験、そういったものに反対に縛られて、にっちもさっちもいかない状態に落ち入る。これがまた人間の姿であります。考える事はいいんです。でも考えすぎると寝れないという事があります。寝ても覚めてもそればかりに捕らわれてしまう。一種のノイローゼになってしまう。現代人がそういう傾向にありつつある。知るという事は良い事ですが、物事はリスクが大きいと言うことです。我々の生活が良くなれば良くなるほど、また一面リスクも大きくなるという事、そこで正しい判断を下していかなければならないという事です。高度な文明社会に入っています。ボタン1つで何でもできるという時代、でもそれに伴った環境汚染、それ以外にいろいろあります。リスクも大きいんです。

我々本来、自分の本心というものは生まれた時に、きれいな心であったはず。ところが悪く言えば汚染されたんです。知識、文化という、科学文明というものに汚染されて、そしてそのきれいな心がだんだん醜くなってきているという事も、事実であります。

お互い石垣島、八重山諸島の純粋な心持を、私たちは大切に保ち続けていかなければいけないと思っております。それがまた皆さん方の使命でもあると思っております。真実を追求する、真実は何かという事です。それは本来お互いの心の中に満ち溢れて

いるんです。でもそれが文化というか常識というか、習慣というか、そういったもので次第に汚染されていく。昔の禅のお坊さんの言葉に「幼子が次第次第に知恵付きて仏に遠くなるぞ悲しき」という言葉があります。味わい深い言葉です。小さい子供がきれいな仏様のような心だったんです。その幼子がいろんな事を覚えるわけです。知識を教え込まれる。常識を教え込まれる。でもこれがなかったら生活できません。風習がある、そんなことの中に、「次第次第に知恵付きて」実は大きなリスクをまた持っているわけです。「仏に遠くなるぞ悲しき」仏様の純粋な心からだんだん遠のいていっていると、いうそういうリスクを抱えているという事です。そういう事も私たちは考えて生きて行かなければならないと思います。心理を求めて、文化を求めて、生活を向上していく豊かさを求めて、幸せを求めていくのはいいんです。でもそれに伴うリスクもあるという事、この両面をよく考えながら私たちはそこに的確な判断をしていかなければならないです。

羞(しゅう)という字があります。すすむとか食物をすすめる、と同時に供える、仏様神様にお供えする。そういう素晴らしい言葉であります、と同時に恥じという、はずという意味があります。私たちは考えてみればきれいな心を持ったお互いですが、いろんな悪行を重ねているということ。親鸞聖人は「罪業深重の凡夫」と自分自身を定義づけておられます。人様の事を言ったらいけません。人の上げ足ばかり取っている。これは現代の風潮です。これはいけないと思います。人様の事は良い事を言うんです。お互い人間ですから、悪い所は持っています。でも人様に関してはその人の素晴らしい事をお互いに話し合うという事。自分自身については自分の悪い事を反省してく、これを恥じるというんです。自分に対して如何なものかと、反省して自分自身を恥じてる、この気持ちが大切です。こんな自分であった、今日1日こういう事をしたけれど、あれは良かったか、悪かったか、と自分を反省して恥じていく。この気持ちは我々は大切だと思います。その中で私たちはどのような行動をしていくかという事です。

それから羶行(せんこう)という言葉があります。羶という字は生臭い、羊の油を羶と言います。人に慕われる良い行いという事です。皆様もロー

タリアンとして良い行いをなさる。これが基本精神ですね。でも大切な事は人に慕われる良い行いをするという事。人に慕われるです。これが羶行という言葉です。

それで私たちは、この日本というものを如何にこれから建て直していくかという事です。「恙なく」我々は日常生活をしていく上において、この恙なきという事は聖徳太子様の時代から使われている事が、あの時代からみんな無事でおれるかな、平和でおれるかなという事です。これが我々人類にとっての一番の願いであるわけです。どうか皆様の力強い世に対する働きというもの、色々と聞かせて頂いております。どうかその活動を期待してやまないものであります。今日はありがとうございました。

### ～例会風景～

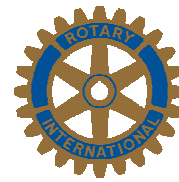


羊の字に関連するお話、色々あるんですね。

ありがとうございました。

2015年(平成27年)3月4日(水) 第33回 例会(通算2649)

国際ロータリー第2580地区



# THE ISHIGAKI ROTARY

(今月のロータリーレート 1ドル118円) WEEKLY REPORT No. 2546



国際ロータリー会長テーマ

ロータリーに輝きを  
Light Up Rotary

ゲイリーC. K. ホアン

石垣ロータリークラブ会長テーマ

真・善・美

2014-15 年度会長 上原 秀政

創立記念日 1962年3月12日 (54周年)



#### ●キミスジ(タテハチョウ科)

名前の通り、鮮やかな黄色の筋が三本。台湾から東南アジアにかけて広く見られる蝶だが、以前は与那国島や西表島で僅かに記録があるだけだった。裏面は枯葉模様で、一種の保護色になっている。

例会日 水曜日 12:30~13:30  
 例会場 ホテル日航八重山(0980)83-3311  
 事務局 〒907-0013 石垣市浜崎町1-1-4  
 TEL/FAX 0980-83-2917  
 URL <http://ishigaki-rotary.jimdo.com>  
 E-mail [ishiroatary@ninus.ocn.ne.jp](mailto:ishiroatary@ninus.ocn.ne.jp)

会 長 : 上 原 秀 政  
 副 会 長 : 新 賢 次  
 幹 事 : 白 道 直 行  
 副 幹 事 : 宮 良 薫  
 S A A ・ 出 席 : 渡 久 地 明  
 情 報 ・ 会 報 : 玉 城 守 雄